

令和4年度第24回教育研究大会の総括

令和4年11月11日(金)の第24回教育研究大会は、3年ぶりに外部参加者をお迎えし、約200名の教育関係者にご来校いただき開催することができました。「生徒の自己調整力をどのように育成し、どのように評価するのか」というテーマに基づき、全体会Ⅰ、研究授業・公開授業、分科会、全体会Ⅱを通じて貴重なご意見を賜り、本校教職員一同気持ちを新たに、日々教育活動に邁進しております。

大会当日の分科会の内容と、外部からご参加いただいた皆様に頂戴したアンケート結果のご報告をさせていただきますので、ご高覧頂ければ幸いです。

◎第24回教育研究大会 研究授業・分科会報告

【 国語科 】

① 堀川高校の国語について(分科会報告者より)

- a. 新旧カリキュラムの比較から新カリにおいて大切にしていること
- b. 実践してみて気づいたこと(一年のみ)

<一年>

- a. 「言語文化」においては、授業と「学びのアセスメント」との有機的な連関を意識して古典基礎基本事項の徹底をする。「現代の国語」においては、近代以降の文章を論理的に読み、他者に正確に伝える力の土台を形成する。「現代」を語る上で必要な考え方の枠組みを知る。
- b. 「言語文化」においては、漢文句法を従来とは異なり古典文法(助動詞まで)に習熟してから学ぶことで「理屈」が理解できることに気づいた。また、読み取った内容を、文章による表現に加え、図表などを用いた文章以外の方法による表現も効果的に用いると生徒に力がつく。

<二年>

- a.
 - ・古典基礎基本事項を読みの中で深く理解させる。
 - ・さまざまな文章を読む経験を積む。
 - ・「良い問い」を立てる。
 - ・「近代」を知る。

<三年>

- a.
 - ・古典文学の世界に遊ぶ(蜻蛉日記・源氏物語・多様な漢文)。
 - ・随想を味わう(論理と文学の融合)。
 - ・入試国語を愉しむ。
 - ・過去の<言語文化>を参照しながら現代・未来の<言語文化>を創出する自覚をもつ。

② 授業者からの報告・質疑応答

<公開授業>

◎ねらい

- ・普段は文理別に授業を行っているが、新たな試みとして混合で授業を実施することで、活性化を図る。
- ・『枕草子』の序章として、作者の人柄や感性や考え方、作者をとりまく宮中での日常を知ることが目的にしてジグソー型で読解した。

・『大鏡』とのつながりを意識した。

◎振り返り

- ・グループが多かったため、机間巡視が不十分であった。また、初見だったため誤読も見られた。
- ・一定ねらい通りに授業を展開できた。

◎質問

- ・「ジグソー法」を用いた意図は？
→後で「説明」することを意識させることで生徒から「切実さ」を喚起する。
- ・生徒たちはスムーズに活動できていたが普段から行っているのか？
→普段は一斉授業での精読が中心であるが、授業外も含め自ら主体的に動くことに慣れている。
- ・所々大きな誤読をしているグループも見られたが、今後どのような指導をするのか？
→今回の授業は作品の「導入」としての授業だったので、ある程度自由に読ませることに主眼を置いた。今後の授業で必要なことについては触れていく。

<研究授業>

◎ねらい

『羅生門』と『今昔物語』を比較することで、『羅生門』の作者の創作部分に気づき、主題について考察する。（『羅生門』については予め五つ問い立てて下人の設定を確認済）

◎振り返り

熟考するのが好きな生徒が多い講座でもあり、授業者の想定以上に生徒たちだけで深い読解をしていた。

◎質問

- ・授業者の一つの発問から、生徒たちが独力で作品の主題に迫っていたのが印象的であったが、生徒たちに他者の発言を受け取る力、言い換える力があるからこそ議論が活性化していたと推察する。普段からことばの力を培う取り組みとしてどのようなことをしているのか。
→古典・現代文問わず授業内での些細な投げかけから（「和歌の心情を二字で表現する」など）、生徒たちの語彙力は涵養されているだろう。
- ・別テキストや論文を独自に読むことは許容しているのか？
→生徒の主体性を尊重し、学習集団の中のリーダーとして育てたい。

・今後「近代を知る」にどうつなげるのか。

→ここ数年生徒と「近代文学」との間の距離を感じる。その意味では、近代文学が「言語文化」の学習領域になったのは良い。

③ 研究協議「生徒の自己調整力を育成する取り組み」について

「堀川の強み」が生きているというご意見を多くいただいた。その理由として、

・生徒が根拠を持って自身の意見を述べている。

・「協働」することが好きな生徒が多い。一方で当然苦手な生徒もいるため、お互いにカバーできる学習集団にしていく必要がある。

・「振り返る力」の高さ。自分の学びを自分のためにしようとする意欲が高い。

の3点が挙げられた。

【 地歴公民科 】

1. 研究授業タイトル

地球的課題と国際協力：人口・食料問題

2. 研究授業の概要

今回の研究授業は、令和4年度の京都市立高等学校合同授業実践研修会で報告者が実施した研究授業を、ビデオ放映した。本時では、人口の増加とそれによって起こる食料問題について、マルサスの「人口論」の考え方を踏まえて、どのような要因によって食料問題が発生しているのか、特にアフリカのサハラ以南で発生しているのはなぜかを、既習の知識を生かして考えるとともに、その解決のためにはどのような取り組みを行うべきかを考え、近くの人と交流を行った。

3. 研究授業のねらい

授業の中では、これまでの学習範囲を用いたグループワークや復習を取り入れ、これまでの学習内容との結びつきやつながりを感じられるような取り組みを行っている。また、自身やグループで課題を追究したり解決したりする取り組みが多く、今後の授業で実施する「課題研究」の活動を見据えた授業構成となっている。

4. 分科会で話し合った研究協議の内容

研究協議では、報告者の地理総合の研究授業を踏まえ、今回の授業のサブテーマである、「単元を超えたつながりと『主体的に学習に取り組む態度』の評価」について議論を行った。今

回の授業内での取り組みでの評価の見取りから、長期間を見据えた地理総合の取り組みや自己調整の方法についてなど、多岐にわたった議論や授業者への質問がなされた。

5. 分科会テーマ

単元を超えたつながりと「主体的に学習に取り組む態度」の評価

6. 分科会で話し合った研究協議以外の内容

分科会では、研究協議後に交流会を設け、小教科ごとに分かれて各校の「主体的に学習に取り組む態度」やその評価に関する取り組みや考えを交流した。新指導要領での評価に悩んでいる参加者も少なくなかったが、本校では行っていなかった様な評価形式や似たような教材を使っている評価基準や観点が異なるものもあり、多様な取り組みを共有することができた。

7. まとめ～生徒の自己調整力をどのように育成し、どのように評価するのか～第24回研究大会を通して得た今後への展望・課題など

指導主事より、自己調整力を伸ばすためにも、その教科における興味や学習内容への関心が湧くような授業設計やワークを行っていく必要がある、というお言葉があった。自己調整のためにも、まずは担当科目の学びに向かう力を授業で作り、生徒自身でもっと深く学びたいと思えるような学習環境を作ることを目標としていく。そして、その自己調整力をどのように評価していくかについて、現在出ている課題と今回の分科会での意見や取り組みとを照らし合わせて、より正確に評価できる方法を考えていきたい。

【 数学科 】

1. 研究授業タイトル

カンニングペーパーをつくろう

2. 研究授業の概要

カンニングペーパーを A4 片面 1 枚に作成し、持ち込んで 40 分授業を受ける。試験後、作成したカンニングペーパーの交流・共有・振り返りを行う。

3. 研究授業のねらい

学びを自己調整するためには自分がどこまで理解できているかの「理解の最前線」を調べることは必須の営みであると考え。A4 片面 1 枚という限られたスペースにカンニングペーパーを作成することによって、理解している内容と理解していない内容を主観的にはあるが、分類する

ことができる。作成したカンニングペーパーへの記載の有無と試験での正否の組み合わせや、交流・共有・振り返りによって、試験後の自学自習の指針を立てさせる。

4. 分科会で話し合った研究協議の内容

グループごとに、一人一人の生徒のワークシート、カンニングペーパー、テストの内容を見て、「授業前の生徒の自学自習の方法・意識」「授業を通して得られたと考えられる方法・意識」をみとり、要素を挙げてまとめた。また、その内容を踏まえて、今回の授業が生徒の自学自習への意義の変容にどのような効果があったかをまとめた。その上で、改善点について意見交流した。

5. 分科会テーマ

自己調整力につなげる理解の最前線

6. 分科会で話し合った研究協議以外の内容

今回の授業内容やその成果も参考にしながら、「数学において、よい自学自習とは何か」について協議し、要素を挙げた。そこで挙げられた要素に対して、生徒がそのような自学自習の方法・意識に達するために、どのような働きかけ(授業内外どちらでも)ができるかを協議した。

7. まとめ～生徒の自己調整力をどのように育成し、どのように評価するのか～第24回研究大会を通して得た今後への展望・課題など

今回の取り組みは学びのアセスメントにつながるヒントにもなると考えられる。弱点を見つけることをグループでやると数学が苦手な生徒はネガティブに感じてしまうので、その生徒へのフォローをいかにするかも重要であり、「自分らしく」でいいことも同時に伝えることも重要である。

また、生徒だけではたどり着けない部分があるので、そのときの教師のスタンスをどうするかも重要である。グループでやっているとコントロールしきるのは難しいが、ある程度の方向付けは大事である。

主体性の評価のために、とりあえず振り返りをさせている、という学校も多い。自分で作るカンニングペーパーはその評価になる可能性がある。

【 理科 】

1. 研究授業タイトル

光

2. 研究授業の概要

光(レンズ, 干渉)の実験観察を通して物理の理解を深める。

3. 研究授業のねらい

日常生活で目にする現象や実験の観察と教科書で学んだ知識から予想されることの差異が生じる理由を探ることで現象と理論の理解を深める。

4. 分科会で話し合った研究協議の内容

実験前に結果を予想させ、結果と予想のずれを考えさせることで考えの足りなさや勘違いを確認させ、修正をすることを通して自己調整力を育むことを目的とした。安易に考えるだけではうまく予想できない実験を用意した。盛り込みすぎて時間が足りなかったのは反省点。

・意見

生徒が実験してる姿が活発だった。

結果を間違えていることに気付いた生徒が、自分たちで疑問を解決し、インターネットで調べて検証していた。これこそ自己調整力と思う。

・質問

Q.生徒に与えた実験器具が分かりにくかったが

A.実験器具はいろいろ試せるように必要分より多めに入れてある。生徒のアイデアを活かせればと思った。

Q.評価の流れを教えてください

A.最後の実験での予想と結果の一致不一致についてプリントを渡して回収し、評価する予定。

Q.生徒の自己調整力に驚かされたが、具体的にどの授業で伸ばしているのか。

A.探究基礎の授業と考えている。個人の興味を持ったことを研究するという経験を通して、考え方の基本を学んでいるのが一番大きいと思う

5. 分科会テーマ

理論と観察結果の結び付けができる生徒の育成

6. 分科会で話し合った研究協議以外の内容

観点別評価について、3観点目の「主体的に学びに向かう姿勢・態度」の評価材料として各学校で実施している内容の交流

・授業の終わりにマークシートで分かった・分からなかったところを書かせている。

・授業プリントや実験レポートでの評価、担当者間で基準をしっかりとそろえる。

- ・授業アンケートの点数化や小テスト。7～8年前から取り組んでいる。
- ・他者評価を生徒にさせる。
- ・ルーブリックを示した場合、生徒が頑張りすぎて評価が上ずる。

7. まとめ～生徒の自己調整力をどのように育成し、どのように評価するのか～第24回研究大会を通して得た今後への展望・課題など

指導主事より

三観点目の評価については、他 2 観点に向かう過程の中での評価をするのが適切。主観が入ってしまうことについても、多すぎない量であれば割り切ってもいいのではないかと考えている。ある程度は実験的にやっていかないと先へ進まない。

観点別評価をする理由は授業改善、生徒の学習の改善にある。評価が目的ではなく、それを改善につなげなければいけない。狙いが明確でないといけない。探究の過程のどの部分を取り上げているかを明確にすると狙いがはっきりし、評価のしやすさにもつながる。

【 英語科 】

1. 研究授業タイトル

ライティング指導に着目した生徒の自己調整力の育成

2. 研究授業の概要

パフォーマンスタスクである Writing 活動に向けて、一人一人の考えを深め、ロイロノートを使用しながら、他者の Writing に目を通しコメントするという交流を通して新しい考え方や英語での表現法を吸収し活用する力を養う。

3. 研究授業のねらい

・戦争や平和, 権利, 平等など, 教科書で出てきたキーワードにリンクさせながら, 自分の選んだ写真に込められたメッセージを自分なりの言葉で説明することができる。

・他者の Writing を読み, 良いところ・改善点・真似したい点について分析し, 相手に伝えることができるだけでなく, 自分の Writing に反映させることができる。

4. 分科会で話し合った研究協議の内容

・新カリの学年での授業 5 単位, 学びのアセスメントの取組内容報告

・質疑応答

Q.1 Writing の授業においては、先生の投げかけは簡単になりがち。その中で、英語・日本語での生徒とのやり取り、どう使い分け？

A.1 重要視しているのは、生徒の思考を発展させること。今回は、文法力よりも思考力を鍛えることが目的だった・緊張している生徒も多かったので、日本語でのやりとりも多かった。英語でのロジックについては、ALT にチェックしてもらった教員例を示した。

Q.2 Writing のバリエーションとして、I 以外から始まる文も多かった。Performance Task の評価基準には、そこを見る欄がないが、どのように評価・指導しているか

A.2 評価基準は、最低、達成してほしいことの提示。全員学習のエッセイでも、引用等、根拠をもって書くことを指導したり、客観的な意見を取り入れることをすすめてきた。見回って個別にアドバイスすることも。

Q.3 生徒、よく書けていた。文法は週1コマだが、どのように文法力(Accuracy)を高めているのか。

A.3 もともと能力高い。授業では、文法の基礎を扱っており、Writing は行っていない。ここまでの Performance Task を経て、細かなところまで指導してきた。学びのアセスメント

でも、生徒間で添削し合ったりしている。教員→生徒、生徒間で指導しあってきた。

5. 分科会テーマ

生徒の自己調整力をどのように育成し、どのように評価すべきなのか？

6. 分科会で話し合った研究協議以外の内容

(報告) 24 期生の英語の取り組みと評価について

(グループ協議)

<具体的な観点>

- ① 観点別評価の効果的な活用法(「知識・技能」と「思考・判断・表現」の住み分け、主体性の評価、評価を通じて学びの自己調整を促すための仕掛けや枠組み、など)
- ② 日々の授業においてできる工夫(4 技能 5 領域の育成、授業デザイン、ノート指導、日々の声掛け、など)
- ③ パフォーマンスタスクについて(頻度、公平性の担保、迅速なフィードバック、など)
- ④ 授業外の取り組みについて(家庭学習の効果的な取り組ませ方、パフォーマンス課題増加による生徒負担増、など)
- ⑤ 新カリで学ぶ生徒たちの傾向について(小中高それぞれの教員が持つべき意識、自ら学ぶ生徒を育成するための工夫、語彙数・文法項目増加による影響、話すこと・書くことへの抵抗感についての考察、など)

7. まとめ～生徒の自己調整力をどのように育成し、どのように評価するのか～第24回研究大会を通して得た今後への展望・課題など

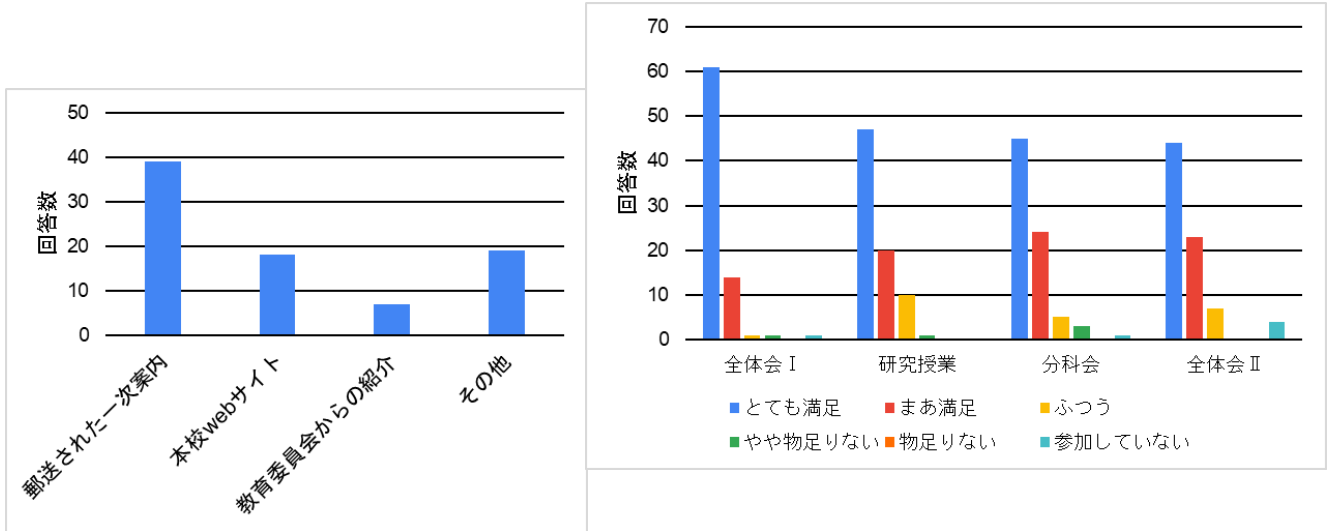
様々な校種の先生が集っていたので、話が多岐にわたっていたが、他の高校だと、パフォーマンスをあまり実施できていなかったり、一人ひとりの担当人数が多いので丁寧に仕切れない部分があることが分かった。改めて、生徒の力がもともと高い側面があるので、それを活かす指導、学び合いを目指す。

他校の取り組み例から効率的なオンラインの活用法も聞けたので、今後検討したい。

第 24 回 教育研究大会 外部参加者アンケート集計

※外部参加者 187 名中 78 名の方から回答をいただきました。

- 研究大会の開催をどのようにして知りましたか。 ● 満足度を教えてください。



・郵送で案内させていただく方法が効果的であることが分かりました。本校 web サイトも定期的にご覧いただけるよう、内容の充実を図っていきたいと思います。

・特に全体会 I の満足度が高いことから、今回のテーマ「生徒の自己調整力をどのように育成し、どのように評価するのか」ということへの関心が高いことがうかがえます。

※以下は、記述で回答いただいたものから抜粋したものです。

【大会テーマ】【学びのアセスメント】【大会運営】【研究授業・分科会】に分けて記載しています。

● 大会テーマ「生徒の自己調整力をどのように育成し、どのように評価するのか」について、本日の大会にご参加いただいておりますこと、感じられたことを教えてください。

● 本日の研究大会について、ご意見・ご感想があれば記入をお願いします。

【大会テーマについて】

新しいチャレンジで、試行錯誤の段階だと思うが、自己調整力がある生徒というのがどのような生徒なのか、イメージできなかった。学校としての意図をもう少し明確にしてもらえると良かった。

主体性をどう測るのか。これを最終的に点数で評価していくこと自体に矛盾があると改めて感じます。主体性の評価は他者との比較ではなく、過去の自分との比較であり、他者である我々が評価すべきものではないと感じました。評価のあり方を含め今後もこの課題に向き合おうと思いました。

自己調整力をどう育成し、どう評価するかということは新教育課程においてどこの学校も苦慮し

ているところです。そのことをテーマにされたことは大変良かったと思います。参加してみようと思った理由もそこにあります。ただ、現場の学校はどこもまだ明確な方向性が出ていないという現状だということが分かったということを経験できたことが成果だったように思います。分科会においてもっと議論を深めたり意見交換をしたりできれば、よりよかったように感じたため満足度を低めに回答しました。研究授業についても、生徒主体の良い授業を拝見できて勉強させてもらいましたが、自己調整力の育成と評価とどのように関連しているかについては直接関わりが感じられませんでした。"

学校パンフレット p17『夢の実現に向かって』にある入試結果と合わせて、受験生による『自己調整力』の重要性を伝えるページがあるとより中学生にとって自己調整力の意味が分かると思いました。

主体性を評価することが目的になってしまわないようにしたいと改めて感じました。自己調整力と粘り強さで評価するという事に引っ張られすぎのようにも感じます。主体性を伸ばすためには、それらより、学ぶことの面白さ、教科の面白さ、探究の面白さを感じてもらうことがまず先にあるのだと思います。そんなことを感じました。

授業を参観させていただき、その授業がどのように単元に位置付けられ、自己調整力を発揮することで学びが変容していくのかを知りたいと感じました。また、自己調整力と探究学習の関係性をもう少し伺えれば、と思いました。

生徒の自己調整力の変容が見られた授業や事業について、それらの進め方のポイントなどを知りたいです。※年度末にホームページで公開(結果報告)があると嬉しいです。

方法知等についての転移について述べられていたのは興味深かった。基本、転移については、その二者の構造体の相似性に気づく必要がある。学習者の気づきだけに委ねるのは非効率的であるため、所謂、遠い転移と認識するものを、近い転移として認識させるために授業者や支援者の介入が必要であるとも考えられる。授業者が段階的にそうした単元をつくる必要があることに気付かされたため、良い学びの機会となった。

【「学びのアセスメント」について】

国語の「学びのアセスメント」アンケート結果ですが、7限目の授業がない時の学習の回答で、個人学習と集団学習の結果の分析ですが、単に数の問題ではないように思えました。生徒は、課題によって、個人と集団の形式を変えている可能性もあるかと思いました。学習内容に最適な学びの環境を、生徒自身が分かって調整しているかが分かるような追加質問があると良いかと思いました。それから、予習の必要性和復習の必要性の差ですが、学びのアセスメントで、予習の仕方や意義に

ついて学んでいるのかが気になりました。予習に必要を感じない理由も知りたかったです。"

数年前に(現在かもしれませんが)取り組んでおられたアクティブラーニングは司会を教員がするとしたときに、「学びのアセスメント」は司会が生徒になったというだけの印象をもちました。アクティブラーニングがいかどうかはさておき、授業内での教え合い or 学び合いでも「学びのアセスメント」に書かれているような効果は得ることが出来ると思うのですが、「学びのアセスメント」だから得られた効果があまり伝わってきませんでした。

自己調整力は、生徒の主体的な学びにより身につけられると考えています。堀川高校さんの授業や探究に向かうマインドはとても素晴らしいと感じました。ただ、若い先生が多いのか授業は「教師が教える」「教師が導く」になっている気がします。学びは生徒の問いから始め生徒が主語になるような授業にしていけば探究との相関関係が構成されると感じました。学びのアセスメントは特別な時間を設けるのではなく、ホームルームや通常の授業で行えるはずで、授業を全て生徒に委ねるくらいあればかなり面白くなるかなと思いました。

私が、「自主的に探究活動ができる環境を整えてあげると、『自ずと』教科学習も伸びてくる」と探究活動を「魔法の杖」のように捉えていたことにも気付かされました。そのために、「探究活動をしていても一定数の生徒はそれを活かしきれないのか」という現実を聞き、あの第一印象を抱くに至ったのだと思います。軽いショックですね。今では、どうして堀川さんが近年「探究課題に積極的に取り組んでいるのにその力を教科学習に活かしきれない生徒が一定数いる」という課題を抱えているのか、そちらに興味を持っています。もちろんその課題を克服するための「学びのアセスメント」がどう経年変化していくのかも継続的に見せていただきたいです。

「学びのアセスメント」の効果を今後研究されることと思いますが、どのように検証するのか、どのような効果があるのか、など評価が難しそうであると感じました。

学習方法を学ぶというのは必要なことだと思います。しかし、ノートの使い方や、テスト直しの方法といった手段に依存した方略よりも、教科特有の見方を養うためのコツ(数学であればわからない問題の方針の立て方)を知ることが重要なのかなと思います。そして、それには教師のある程度の介入は必要なのかなとも思います。一意見ですが、学びのアセスメントをよりよい形で進めるために、教員が対等な立場で議論に参加するのもいいのかなと。大変興味深い提案でした。

学びのアセスメントという時間が設けられ、生徒たち同士で高めあうことができる機会があることに感動しました。こんなことを話し合っていると先生は事前に係の生徒に伝えるとおっしゃっていましたが、例えばどのようなことを伝えているのか、それまでにどんな準備を先生がするのか気になりました。

疑問に思った点は、2つあります。1つは、「生徒同士の得意不得意が明確になる」ということをプラスに捉える生徒もいる一方、その差をマイナスに捉えてしまう生徒もいるのではないかと感じた点です。生徒がギャップを感じたとしてもそれをエネルギーに変えて高みを目指すには、つよい（strong というより、antifragile でしょうか）マインドが必要だと思うのですが、学校における指導全体の中で教師がどのようにはたらきかけているのか気になりました。

2つ目は、課題に挙げられていた、「『苦手意識が改善される』にとどまり、『高みを目指す』に至っていない」ということについてです。この点で、生徒たちに「自己調整力」という言葉を実際に用いて学びのアセスメントの説明をしておられるのか気になりました。というのも、「調整」という言葉は、「調子や過不足などを整えて、規準や正常状態に合わせること」であり、どちらかというとなマイナスをゼロにする変化をイメージしがちなと感じたからです。しかし、学びのアセスメントで目指されているのは、辞書的な「調整」よりもっと広い、自己変革のような劇的なものも含んでいるのではないかと思います。もし自己調整力という言葉を実際に用いて指導を行っておられるのであれば、「調整」の意味について捉え直してみるのも一つの方法ではないかと思いました。

学びのアセスメントについてもっと詳しく知りたかった。初めにどう取り組ませているのか、教師は生徒が自由に話題を話し合える雰囲気にするためにどうマネジメントしているのかを聞いてみたかった。

学びのアセスメントの時間が教科の位置づけなのか、知りたいです。また、働き方改革が叫ばれている中堀川高校の現状がどうなのか気になります。更に、単位数を減らすことに対して授業の進度や生徒の取り組みに対して不安がないのか気になります。

【大会の運営について】

4階の教室案内掲示に他教科はあるのに英語がなく、先生に案内していただいて助かりました。

分科会で他の学校の先生方と意見交換する時間をもう少し取っていただけるとありがたいと思いました。

分科会でタイムキーパーを決めるなど、司会者へのサポートがあればよいのではないかと思います。

探究活動をしている生徒の様子が見れたら、非常に嬉しいです。

コロナ対策の点で全体会や教室が密で感染が怖かったです。座席間隔をもう少し開けていただければありがたかったです(サテライトでもいいので)。

授業公開の教室には入りきれず、廊下から見でしたが、できれば、出入り口のドアや窓を外すなどしていただけたら、もっと見られたと思いました。

【研究授業・公開授業へのコメント】

<国語>

生徒が自分の学習を振り返る機会是与えても、そのやり方が正しいのかが分からなかったが、堀川高校の国語科の、自分の考えを言語化し、できなかったこと、取り組みたいことも言語化させていたのがすごく参考になった。

振り返りシートを徹底しているのが素晴らしかった。ジーマンだったように思うが、自己調整学習については、徹底した記録による振り返りが有効だとしている。安彦忠彦も、評価とは、本来自己評価だとし、評価と評定を峻別し、相互評価の有効性も指摘している('99)。そうした意味で非常に理に適っており、改めて勉強になった。

学習者が、授業者が行う評定をどのように評価の視点にしていくかや、形成的評価のより良い実施方法など、また教えて頂けたら幸いです。

公開授業Ⅰの古典探究について、その場で古典を読むこと、担当箇所を深めること、自分のパートを同じグループのメンバーに説明すること、など一時間のなかでさまざまな思考を育成できる授業になっていると感じました。ジグゾー法にすることで、共有しあう際に生徒が積極的に議論に参加できるよう工夫されているなどと思いました。一番印象に残ったのは、議論の中であるグループの生徒が「なんか人間らしいよな」と発言していたことです。今回取り上げられた文章では、清少納言は「気がきつそう、ライバル意識が強そう」など、一見すると+でない人物像も浮かび上がっていたように思います。しかし、そんな性格が露呈しているにも関わらず、清少納言の作品は現代まで読み継がれている。千年以上たった今に生きる私たちでも同じ「人間らしさ」を見ることができるとというのが、枕草子の面白さなのかなと思いました。古典に対する意欲をどのように高めていくかというのは自分の中で課題なのですが、このような言葉が生徒から出てくるような授業をしたいと強く感じました。

研究授業Ⅱの言語文化について、まず、「羅生門をこの時期にするのか・・・」と驚きました。しかし、入学から一定の期間が経った今の時期だからこそ、生徒の議論も活発なものになりやすいのかなとも感じました。また、羅生門のように、古典作品が底本として用いられている小説を扱う時には、「言語文化」としての編成が活きてくる(自然な流れで小説と古典をつなぐことができる)と感じました。

学習指導案の生徒観に、「時代背景を含めた心情読解に及ばない」ことが課題として取り上げ

られており、本作品を読む意義としてもあげられていました。そこで、作品を読むために必要な「時代背景」とは何か考えさせられました。『羅生門』の場合、作者の生きた近代と、作品の舞台である平安末期が中心でしょうか。しかし、目標にもあった「時代背景を含めた読みの必要性に気づき、また普遍的な人間の姿を読み取る」ためには、私たち(読者)が生きる現在とはどのような時代かということも俯瞰的に捉えておかなければいけない(もしくは、国語の授業を通じて捉えられるように)と感じました。実際に本を読むときは事前に時代を調べるわけではないため、国語の授業が各時代や作者、作品のイメージの醸成に大きくかかわるかもしれないという自覚と責任を持って、授業構想や自己研鑽に取り組みたいと感じました。

<地歴公民>

研究協議の時に若い歴史の先生が QFT の問いづくりの授業をしているとお話していましたが、ワークシート+アルファのところもう少しあると面白いと感じました。問いから始まる授業の時はアブダクションをどう生み出すか、概念をどのように考えるかが大切です。問いから始まり、仮説を立て概念を膨らませていけばもっと面白い授業になるかなと感じました。

<数学>

カンニングペーパーを用いた学習方法の見直しについては、今回の授業見学を通して生徒同士が互いに考えを吸収し合おうとする姿を見取ることができ、とても効果的であると感じた。本日、生徒や先生方から集まった情報をもとに、さらにどんな発展を見せていくのか興味を持っています。

評価の仕方は、カンニングペーパーの振り返りが参考になった。毎回評価していくの大変だが、定期的にポートフォリオを作成する。

解けなかった問や、見当違いな解き方を交流することで修正していく姿を見た。間違いを認識し、周りからの意見を取り入れて進んでいく姿勢は素晴らしいと考える。これが生徒の進路について自己分析しているのかを知りたい。自らの学びたい領域を認識し、そこに向かうにはどうすれば良いのかをどれほど考えられるかが気になった。

<理科>

物理の授業で、実験をしながら波長を求めていく中で、生徒が活発に議論をして答えを導いていく過程が、探究の手法を教科にも活かしていると感じ、大変勉強になりました。

生徒の様子を見て、先生が説明してしまっていた最初の復習事項の部分も、生徒間で知識を共有して干涉条件を導くことができそうであり、自己調整力をさらに高められる可能性を感じました。

評価についてはやはり主体的な態度の観点が難しいなと思いました。実験レポートやテストで評価するイメージでしたが、基礎プリントは点数化しやすく1つの評価材料になり得るため、興味深いと感じました。参考にさせていただきたいと思います。この度はありがとうございました。

物理の教材で扱われていた基礎プリントについて、単に記述して提出させるだけでなく、教師による添削を実施しA判定をもらえるまで、3回提出させるという点が自己調整力の評価に使えるのではないかと感じました。さらに学びのアセスメントの時間が、生徒が互いに自己調整力を育成するモチベーションになる可能性を感じました。

<英語>

教科書の内容を広げて生徒に考えさせるしかけや、日々の先生方の手立てが伝わってきた。外部参加校の他校の先生は英語でのフィードバックを推奨されていたが、生徒に考えを深めさせたり気付きを与えるには、日本語使用が妥当だったと思う。ペアで説明する時は英語縛りがあってもよかったかもしれない。

Writing の授業で、英文を書く際に、先生の文章や英語の記事を見本に、何度も見返しなが、アイデアや書き方を工夫する生徒、ある程度の長さの文章をそのまま検索ワードに入れ、ヒットした文章を参考にしている生徒もいました。おそらく、パラフレーズの参考として見ていたのではないかと思います。それぞれ、学習の方略が違いますので、「自己調整力」を活用していると思いました。一方で、1つのセンテンスを何度も修正し、思考停止しているように見える生徒もいました。前者と比較すると、まだ、何が不足しているかを分析できていないようにも見えました。このような場合、主体的に援助を求められないと見るができるのか、それとも、思考中ということで様子を見るべきなのか、教師はどのような判断ができるのでしょうか。先生が、普段の授業でどのように指導しているのか、参考のために教えて頂きたいと思いました。